

安全・安心

緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)



崩落した道路の被災状況調査を実施(平成29年九州北部豪雨)



崩壊した河川の被災状況調査を実施(平成29年九州北部豪雨)



路面に堆積した土砂を撤去(平成29年九州北部豪雨)



法面崩落箇所の被災状況調査(平成29年台風21号)



自治体への支援(資機材等の支援)



自治体への支援(人的支援)



<主な派遣実績>	隊員数(人)	のべ人数(人・日)
H27関東東北豪雨	35	155
H28熊本地震	128	792
H28台風10号(北海道・東北)	44	317
H29九州北部豪雨	68	398
H29台風21号(近畿)	39	55
H30福井地方豪雪	39	75

市町村への災害支援

整備局と市町村間で「災害時の応援に関する申し合わせ」を締結

地方自治体(市町村)の区域で災害が発生、または災害が発生する恐れがある場合において、被害の拡大と二次災害防止のため、TEC-FORCE、リエゾン、災害対策用機械の派遣を迅速かつ円滑な活動とするために、協定を締結しています。

建設業団体との連携

整備局と各種業団体間で災害協定を締結

地震、津波、風水害等により災害等の発生やおそれに対して、事前の体制整備、被災後の迅速かつ円滑な緊急応急対応、緊急随契工事の実施等のため、協定を締結しています。

災害時の建設業事業継続計画(建設業BCP)推進

大規模自然災害に対しては、社会基盤の二次災害防止や緊急対応、早期復旧・復興が最重要課題となります。このため建設会社等は自社の被害を軽減し、早期に通常業務に復帰するための災害対応力の強化を図る取組が必要であり、その取組が推進されることを期待し、近畿地方整備局では災害時の建設業事業継続力認定制度を実施しています。

災害協定に基づく対応実績!

■平成30年2月福井地方豪雪における除雪支援

「災害時における災害応急対策業務及び建設資材調達に関する包括的協定」に基づき、(一社)日本建設業連合会関西支部より、除雪要員延べ131名を派遣。昼夜にわたる人海戦術により、除雪作業を実施。



事業継続計画(BCP)とは?

企業は、災害や事故で被害を受けても、取引先等の利害関係者から、重要業務の被害を小さくできるだけ中断しない、できるだけ短い期間で再開することが望まれています。この事業継続を追求する計画を「事業継続計画(BCP: Business Continuity Plan)」と呼びます。

これまでの認定会社

本制度を平成24年度から発足させ、災害時の事業継続力を有す660社を認定。(平成30年3月31日時点)

南海トラフの巨大地震・津波等の大規模自然災害に対する危機管理対応

他機関と連携した各種訓練

行政機関はもとより自治体、公共機関等の防災機関と連携し、大規模自然災害や危機管理事象等から国民の安全・安心を守るため各種訓練を実施しています。

災害対応

日々の訓練を実施する事で、災害時には迅速な対応を行い、応急復旧にむけた支援を実施いたします。

日々の訓練成果を



緊急車両の通行ルート確保訓練を警察等と合同で実施

◀ 放置車両の移動訓練の状況(平成26年11月8日:和歌山県)

TEC-FORCE隊員によるポンプ車での緊急排水訓練

ポンプ車排水訓練の状況(平成26年11月8日:和歌山県)▶



実災害対応へ生かす

平成28年 熊本地震

被災状況の把握、緊急復旧工事への支援を実施

- ・衛星通信車を用いた映像の伝送(平成28年4月20日)
- ・緊急復旧現場への照明車の派遣(平成28年4月29日)



平成29年 台風21号災害

和歌山県紀の川市における大規模な排水作業

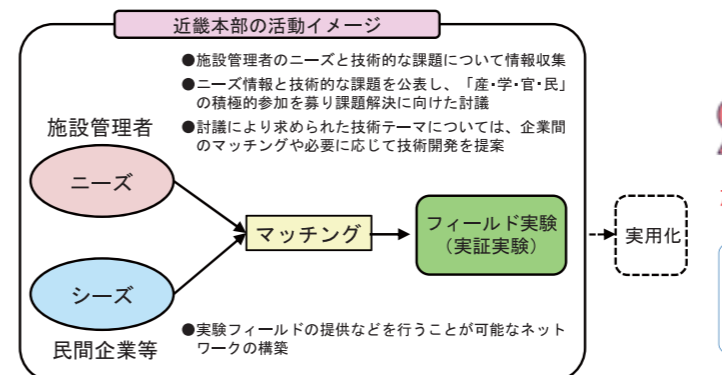
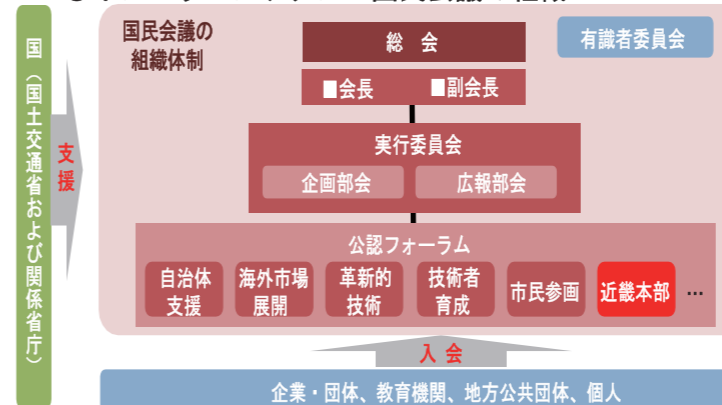
ポンプ車による浸水地域の排水状況(平成29年10月23日)▶



インフラメンテナンス国民会議 近畿本部(平成28年12月15日発足)

インフラメンテナンス国民会議は、インフラを良好な状態で持続的に活用するために、産学官民が一丸となってメンテナンスに取り組む社会の実現に向けて、さまざまな主体が参画する組織です。近畿本部は、その公認フォーラムに位置付けられ、施設管理者が抱えるインフラメンテナンスに関する課題解決に向けた活動を実施しています。

◎インフラメンテナンス国民会議の組織



フォーラム

施設管理者が抱えるインフラの維持管理の課題について、民間企業等を交え情報の共有を図り、民間企業等からは保有する技術の情報提供を行う等、課題解決に向けた討議を行います。



フォーラムの様子

ピッチイベント

施設管理者の課題(ニーズ)に対し民間企業等が保有する最新の技術(シーズ)を提案し、技術の発掘と社会実装、連携の促進を図ります。ピッチイベントの結果、施設管理者が抱える課題解決の可能性が高いシーズについて、現地において、実験を行い技術を検証します。



ピッチイベントの様子

フィールド実験(実証実験)の事例

高所作業車の使用、梯子・足場の設置が困難な橋梁において長時間の通行止めをせずに、橋梁の近接目視点検をしたい。

施設管理者(ニーズ提供) マッチング

- ・短時間の通行止め間に検査路を設置、設置後は車輛通行可能とする点検技術を保有。
- ・設置した検査路は人力で移動が可能、損傷箇所に容易に近接して点検可能。

(シーズ提供) 民間企業等



検査路の設置状況

条件に対する適用性を確認した一方、改めて確認された改善点について更なる改良を目指す。